

(別添2)

No.	7
策定年月	令和3年4月
見直し年月	令和4年6月

麦・大豆産地生産性向上計画 鶴岡市産地 (作成主体:鶴岡市)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

鶴岡市は、経営耕地面積に対する水田の割合が約9割を占める国内有数の穀倉地帯である。

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、農業所得を確保するには、非主食用米及び園芸作物等の生産拡大を図るとともに、食料自給率の向上に向け、大豆の生産を拡大する必要がある。

大豆の生産性向上にあたっては、低コスト生産に向けた作業の効率化や隣接ほ場からの浸透水による湿害軽減を図るため団地化を推進するとともに連作障害の解消に向けた輪作の取組みを進める。

また、近年のゲリラ豪雨や長雨などの影響により単収の低下が見られることから、排水対策の取組みを強化することにより、品質の向上と安定した収量の確保を実現する。

現在、鶴岡市においては、水田収益力強化ビジョンにより大豆の作業の効率化や団地化の推進の取組みを行っているが、本計画において、大豆の生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆については、「エンレイ」「里のほほえみ」「リュウホウ」を中心に生産され、豆腐・豆乳や納豆原料などの加工向けに全国に販売されている。また、一部では契約栽培による「あやこがね」の生産もされている。需要には応じられている現状ではあるが、地域によっては作期分散が図られず、湿害の影響により刈取時期が遅れ、適期刈取りが難しくなっているという課題がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、担い手の減少により大豆の作付面積は減少傾向で推移している。単収については長期的には増加傾向となっているが、ゲリラ豪雨や長雨などにより年次差が大きくなっている。
農地の集約が進み、1経営体あたりの経営面積が拡大しており、作業効率を図るために団地化等の推進が必要だが、団地化率は横ばいとなっている。
平均単収の増加のために、適切な肥培管理や湿害対策、ダイズセンチウ対策等を徹底する。また同一ほ場での連続作付けによる地力低下や作業効率化などに向けた対策として、団地化と水稻輪作体系の取組の拡大が必要である。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦										
大麦										
作物計										

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
大豆	エンレイほか	(988) 1,020	(968) 987	(953) 987	(148) 146	(190) 189	(129) 125	(1,462) 1,489	(1,839) 1,865	(1,191) 1,234
作物計		(988) 1,020	(968) 987	(953) 987	(148) 146	(190) 189	(190) 189	(1,462) 1,489	(1,839) 1,865	(1,191) 1,234

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦								
大麦								
作物計								

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	エンレイほか	730	71.5%	730	73.9%	680	71.4%	
作物計		730	71.5%	730	73.9%	680	71.4%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

当地域においては、ほ場1枚の面積が30a未満が大半を占めているが、産地交付金の団地加算の要件は1ha以上で、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。